

## 新聞を読んで身に着く力とは何かを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今日は、大田原マラソン大会が開催されており、非常に盛り上がっているようです。皆さんには頑張って出場、応援をしていただいているのでしょうか。スポーツの秋ですので、マラソンをはじめとするいろいろなスポーツをすることは素晴らしいと思います。
3. スポーツをやって為になることは、3つあります。1つは、練習は不可能を可能にするということです。マラソンに限らず、どんなスポーツも最初はなかなか上手くいかないと思います。しかし、練習に練習を重ねますと、まるっきり初めてやる時と比べて本当に上達します。例えばマラソンであれば、大田原マラソン大会をはじめとするマラソン大会に出られるまでになります。このように、練習は不可能を可能にするのです。
4. 2つめは、フェアプレイの精神が身に着くことです。いろいろなスポーツには必ずルールがあります。ルールの中でプレイをする・卑しいプレイはしないということで、スポーツをしている方はフェアプレイの精神を身に着ける方が多いと思います。また、スポーツをする方はルールとは何かということをお勉強しますので、規範意識が高まって非常によい教育効果も生まれます。
5. 3つめは、よき友ができることです。例えば、マラソンをしていますと、マラソン大会に出場なさった方々・大会を運営して下さった方々・沿道で応援をして下さった方々と本当に深い絆ができ、一人、二人という形で友達ができてきます。
6. このように、スポーツをすることによって得られるものは3つあります。1つは、練習は不可能を可能にするという精神。2つ目は、フェアプレイの精神。3つ目は、よき友が得られることです。これを私に教えてくださったのは、慶應義塾大学の元塾長の小泉信三先生です。私はこのことばが大好きで、いつもいつも考えています。皆さんはどのようにお考えになるのでしょうか。
7. さて、11月は「新聞を読もう」という月間です。特に、教育関係では「新聞を教育へ」ということで、新聞を読んで教育的な力を身に着けようという非常に大きな動きがある月です。
8. 11月2日、9日、16日の「開倫塾の時間」では、和泉聡足利市長をゲストにお招きしてお話を

伺いました。和泉市長は朝日新聞宇都宮支局長を務められてから市長になった方ですので、新聞の意義をお話していただきました。今日は、私の意見を述べさせていただきます。

9. 新聞を読むことによって得られる力は何かといいますと、「自分で考える力」だと私は思います。新聞にはいろいろなことが書かれていますので、読めば読むほど自分で考える力が身に着くのではないかと思います。
10. また、批判的思考能力も身に着くと思います。新聞は、社会の番犬といわれています。英語では watch dog です。つまり、社会に問題があると、番犬のようにワンワンと吠えてここに問題があるよと教えてくれる、これが新聞だと私は思っています。ですから、新聞記者の方々は、社会をよくするために問題点の在りかを読者に教えようと日夜取材をなさって、5W1H 「いつ (When)、どこで (Where)、だれが (Who)、なにを (What)、なぜ (Why)、どのように (How)」で記事を書かれています。これが新聞です。このように、新聞には世の中で起こっている事件や出来事、問題となるべきところ、これから取り組むべき社会の課題などがたくさん書かれています。ですから、新聞を読むと、「自分だったらどうしよう」という自分で考える力、「これはこのようにするとよいのではないか」という批判的思考能力が身に着くと思います。
11. では、新聞はどのように読めばよいのでしょうか。最近、各新聞社がインターネットを使って簡単な記事を載せてくれています。これはこれで非常に役に立つと思います。ただ、私が一番お勧めしたいのは、新聞を家で購読して、できれば毎朝読んでいただくことです。日本は非常に素晴らしい国で、新聞が各家庭や職場に毎日配達されます。他の国ではこのようなサービスはあまりしていません。また、最近はなくなった新聞もありますが、夕刊もあり、多くのところで購読できます。朝刊と夕刊を合わせて読みますと、世の中のことが本当によくわかります。
12. 私のお勧めの読み方は、一面からなめるようにゆっくりゆっくりと読んで、「これはこういうことなのか」とよく認識していただくことです。新聞記者の方は命懸けといいますか、命を削りながら記事を書いていらっしゃいます。それも、実証ベースといいますか、事実に基づいた報道が一番大事とされているため、よく取材をして事実かどうかを確かめてから読者に知らせてくれています。ですから、自分で考える力、批判的思考能力をつけるためにも一面からなめるように読んでいただければと思います。特に、一面の下の方にあるコラムはお勧めです。例えば、朝日新聞は「天声人語」、毎日新聞は「余録」、読売新聞は「編集手帳」、産経新聞は「産経抄」ですが、このコラムは各々の新聞社で一番文章の上手な方が書きます。短い文章ですが、そこには社会を鋭く見た見方がたくさん書いてありますので、一面の下の方にあるコラムを御覧いただくのはとてもよいと思います。
13. 二面か三面あたりには「社説」が載っています。これは、各新聞社が社会のいろいろな出来事や問題についてこのような考え方はどうかということを示す一つの見方です。新聞社の方々が訴えたいことは何なのかを知るために、社説を是非お読みください。日曜日などの時間のあるときにいくつかの新聞の社説を読み比べますと、一つのテーマに関していろいろな見方があることがわかりま

す。こんなにたくさんの方々の見方があるのだなと考えながら読ませていただくと、非常に面白いです。

14. それから、読者のページも面白いですね。このページからも新聞を読んでいる方々はいろいろな考え方を持っていることがわかり、為になります。このようにして、新聞を読んで自分で考える力、批判的思考能力を身に着けるようにお願いします。
15. ところで、新聞を読むと学力が身に着くかという問いかけがありますが、新聞を読んでいる方は非常に学力が高いです。文字を読んで、それを理解する訓練をいつもしていますので、新聞を全く読まない方に比べると学力の差が格段に出ます。ですから、新聞を読んで学力を身に着けることも大事ではないかと思えます。
16. 11月には「新聞を教育へ」という月間ですので、新聞を教育に生かしていただきたいということで、新聞を毎日読みましょうというお話をさせていただきました。皆さんにも、今日からでも明日からでも新聞を読んでいただきたいと思えます。